



光をもとめて

このところ、陽が上り、また沈むころ、軽い散歩に出かける。家の周りに光を求める草花・野菜・鳥や虫たち。無私の心境・さわやか呼吸・いいな一生き物は・・・。

彼、彼女らは誰の指図もなく自分で替わっていきっていくからえらい。野菜は人様の生きる糧になるから人の手が加わっている。しかし野菜の花は天下一品。千葉の田園風景はたまらない。日本1だろう。いずれも種の保存、生のリレイへのたくましさ、垣間見た程度だが自然はずごい。

鳥や虫はどうだろうか

人様の生活圏の拡大で「鳥たちの種類や個体数は、蛙やホタルなどと同じく減少の一途。それでも四街道は里地や緑に恵まれ、私の家や散歩道で聞く鳥は12種をかぞえる。しかし近くの4車線道路建設や谷津田の開発で、「・・・かつて鶯という物がいたそう」となることは必死だ。26年前この緑・田園がよくて引っ越してきた。四街道をよごす1人となった。やや責任を感じて11年間きれいにする会の世話人をして毎月1回ごみ拾いをしたりチラシを作り、巻くの仲間とてわけしてやってきた。そろそろ逃げていいだろうか、あの世に。もっとも銀河鉄道に乗る汽車賃もないか。

